刈谷市の歴史散策　　2017.3.11

歴史の小径「高須コース」

刈谷ふるさとガイドボランティアの会が主催する、刈谷市高須地区の歴史巡りに参加しました。私は最後のグループに入り 15 名ほどにガイドは 5 名いて、それぞれのガイドが分担して案内してくれました。依佐美送信所記念館がある「フローラルガーデンよさみ」を 9 時に出発して、高須天神社・法寿寺・神明橋・龍江寺・引き込み線跡と回り歩数は 7.300 歩、最後に依佐美送信所記念館を見学して 11 時 45 分頃に終了しました。

地蔵堂と加藤東太郎頌徳碑

フローラルガーデンを出て北西の神明橋方向に向けたコースを進みます。最初の案内は地蔵堂と加藤東太郎頌徳碑です。この地蔵堂には 4 体の地蔵尊と 1 体の馬頭観音が祀られています。これだけの地蔵尊があるのは、他の場所から移されたからといいます。そして、今も 8 月には地蔵盆が行われているそうです。東浦町石浜の畑中地蔵では子供たちが少なくなり、地蔵盆が無くなってしまったと聞きますが、復活したのでしょうか。ということは、この地区には子供たちも多くいるのでしょう。

地蔵尊の隣に大きくて立派な石碑があります、地元の偉人「加藤東太郎」の頌徳碑です。彼は明治 3 年に高須で生まれ 86 歳で亡くなります。龍江寺の寺子屋で学び、その後は独学で勉強。明治 20 年より教員を務め、その大半を地元の半高小学校に勤め、農村子弟教育の場としての校風を築いたと言われています。その後も地区の要職を務め村づくりに尽力しました。

鳥居と祭神が珍しい高須天神社と松平定政

2 種類の鳥居

地蔵堂のすぐ先に高須天神社があります、天神さんと聞けば祭神は菅原道真とばかり思っていました。でもここの祭神はアマテラスオオミノカミとスサノオノミコトから生まれた 5 男 3 女神の一人「アメノホヒノミコト」だと言います。それに入り口には 2 種類の鳥居が建っています。いずれも明神鳥居ではありますが、手前は木造朱塗りの宮島の厳島神社の鳥居と同じタイプ。その

直ぐ後ろに石造りの鳥居が建っています。なぜでしょうか? 理由が分かりませんが、たとえば、どうしても鳥居を寄進したい方々がいてまったく同じではいけないので、違うタイプの物にしたのでしょうか……

ここには安政４年(1847)寛政６年（1794）寄進の手水石や、元禄１１年(1698)、天保７年（1836)、弘化３年(1846)寄進の常夜灯があります。境内には末社として秋葉社・神明社・稲荷社・天王社・忠魂社を祀っていますが、ガイドの説明では忠魂社に４代目刈谷藩主松平定政が祀られているとか…しかし、そのような案内板は見当たらなかった。いただいた資料には松平定政は高須新田開発に尽力した、その後家光の死後に所領一切を困窮武士に与えるようにと返上、出家して江戸市中を托鉢して回ったと記されていました。

次は重原山法寿寺です、この寺は重原村の廃寺・法寿庵の名をもらい受け法寿寺と言います。本尊は阿弥陀如来立像で、蓮如上人直筆と言われる「阿弥陀経曼荼羅」があります。写真を見せてもらいましたがなかなか立派な物です。

神明橋と高須河岸跡

ここまでは郷中の道という感じでしたが、少し歩いて大通りに出ました。その先で猿渡川に出ますと神明橋です、そこからは田園風景が広がり豊田総合病院が見えます。それで今いる場所がどの辺りなのか分かりました。この神明橋は、江戸時代から高須村と刈谷や高須新田を結ぶ橋として大切な役割を果たしてきました。明治の初めまで、この橋の近くに神明社が祀られていたことから、高須村の人々はこの橋を「神明橋」と呼ぶようになったと言います。また、依佐美送信所落成を記念して造られた鉄筋コンクリート橋の、欄干の上に地球儀が載せられていたことから「地球橋」とも呼ばれるようになったと言います。平成 12 年に造られた今の橋にも高須地区の要望を受けて地球儀が載せられています。その地球儀には８角の枠がついており、これは依佐美送信所の電波が世界を駆け巡ることを意味しているそうです。

明治の中頃、神明橋の上手には２軒の瓦屋がありましたが、昭和 19 年に廃業しました。それと神明橋付近には船着き場がありました。江戸時代初めの高須村の物資運搬は、海上輸送が主で猿渡川に河岸が造られ年貢米・瓦を造る粘土などが積み出されました。粘土は田から掘り出しトロッコで河岸まで運び、ポンポン船で高浜まで運び、そこで三州瓦に生まれ変わったのです。

さらに昭和 21 年依佐美農業会が依佐美送信所の余剰電力を利用して製塩を始めましたが、塩が市場に出回り始めた昭和 23 年には閉鎖されました。

田園の中の龍江寺と内藤魯一

神明橋から南に向けてのんびりした雰囲気の集落を抜けていくと、若者たちが数名集まっている家がありました。前を通ると聞こえてきたのは日本語ではなかった、どうやら中国の若者らしいがグループで家を借りているのだろうか。しばらく行くと田んぼの広がる場所に出て龍江寺に到着した。

この寺は建久 4 年(1193)の創建と言われているが、およそ 450 年間は無住状態ではっきりしていない。万治元年(1658)6 代目刈谷藩主稲垣重昭が菩提寺にしたとされる、本尊は千手千眼観音という。

ここの墓地に自由民権運動家の内藤魯一と私費を投じて新田開発・改修をした稲生平七の墓がある。特に内藤魯一は福島藩家老の家に生まれたが、幕末・維新期は重原藩の成立、藩政改革に力を尽くした。その後、板垣退助らとともに自由民権運動に奔走し、明治 14 年(1881)板垣退助を党首に自由党が結成されると、幹事に選ばれた。翌年板垣退助の東海地方遊説に同行し、岐阜で刺客に襲われたとき危急を救った。有名な「板垣死すとも自由は死せず」の言葉は内藤魯一の言葉だったという説もあるという。

それとガイドの説明によると、このお寺はとても広い領地を持っていたという。入り口の門から数百メートル先までがお寺の領地だったというからびっくり。

無線鉄塔にまつわる話

ここまでで今回の見学予定を終えて「フローラルガーデンよさみ」に戻り、依佐美送信所記念館を見学します。その途中に資材運搬のために建設された、引き込み線の跡が道路として残っている部分があり、その狭い道を通りました。

3 月申請 7 月完成の引き込み線

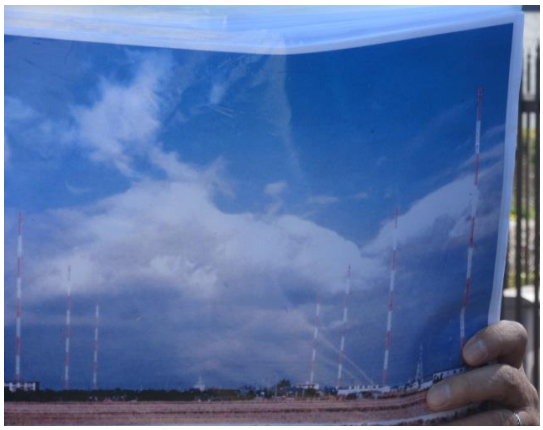
7 万トンという建設資材を現場まで運ぶために、小垣江駅から 2.4km の引き込み線が建設されました。この引き込み線は 3 月申請、5 月許可、7 月完成という考えられないスピード。その上任務を終えて 9 月 30 日限りで取り外されました。貨物運搬は B1 号蒸気機関車が使用されましたが、昔、観音堂があった所に来ると機関車が脱線するということが 3 回もありました。何故だろうと調べると、観音堂を移動させたときにお祓いもせずに実施したことが判明。急遽、龍光寺の住職にお願いしてお祓いをしてもらい、その後は脱線しなかったと言います。

「フローラルガーデンよさみ」のミニ SL は B1 号蒸気機関車の 1/6 モデル

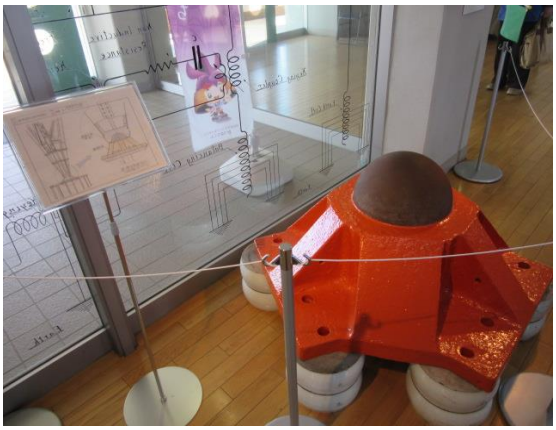
園内を走るミニ SL は、引き込み線で活躍した蒸気機関車の 1/6 モデルとして造られい

るそうです。このことを知って乗るのと、知らずに乗るのでは大きな違いがありますね。

無線塔は２列８基、高さ 250m



在りし日の姿



鉄塔の下部

この鉄塔の特徴は下部が固定されていないことです、本体断面は正三角形で高さ 250m、下部は球状の玉を包むように乗っているだけです。それを固定しているのは 3 方向に何本も張られているワイヤーロープです。この構造により戦前の東南海地震・三河地震さらに伊勢湾台風の時でも異常はなかったのです。

悲しい事故もいつだったか…里帰りしていた親子に悲しい事故がありました。小学生の男の子が何故か鉄塔の下まで行き感電死したのです。

刈谷八景の一つ夜には赤い電球がいくつも点灯して、遠くからもよく見え刈谷八景の一つに数えられ、小中学校の校歌をはじめ多くの詩歌に歌われています。

平成 9 年に撤去欧州との情報のやりとりのために長波送信所が造られ、送信用の鉄塔として昭和 4 年に完成しました。太平洋戦争の始まりとなった「ニイタカヤマノボレ 1208」を発信したと言われています。戦後は米軍が潜水艦との連絡に使用したと言われています。平成 6 年返却され平成 9 年に撤去されました。

依佐美送信所とはどんな施設

依佐美の鉄塔のことは知っていても、依佐美送信所についてはよく知りませんでした。そもそも何故この施設が造られたのか知る必要があります。

造られた背景…明治から大正にかけて諸外国との通称・外交が盛んになり、大量の情報のスピーディーなやりとりが必要になった。当時は海底ケーブルによる有線電信だったが、やがて長波を利用した無線通信が実用化され、送信所が対米向けは福島に造られ対欧州向けが依佐美に造られた。

何故依佐美に造られたのか…欧州方向に高い山がないこと、受信所が三重県四日市に造られこの受信所と 30km 以上離れ電波障害がないこと。中部地方は安価な電力供給が可能だったことが決めてになった。

設備は国産なのか?…高周波発電機など機械類はドイツから輸入したが、アンテナ鉄塔などは国産で石川島造船所が製造している。
建設費用は…当時のお金で 550 万円という。
世界一だった…送信所の規模は「メーターアンペア」で測られる。最大電流 750 アンペアの 15 万メーターアンペアで、当時 8 万メーターアンペアのナウエン局を上回り世界一だった。

……このように素晴らしい施設だった依佐美送信所は、その後昭和 11 年に短波の設備も設置されました。戦後は米軍が管理していました、そのため米軍の宿舎が 35 棟建っていました。それもあってここではカレーライスなどの料理講習なども行われました。さらには幼稚園が併設されていたと言います。

そんな送信所も平成 5 年に業務を停止し、平成 9 年鉄塔が解体されました。そして、平成 19 年フローラルガーデンよさみ内に依佐美送信所記念館(上の写真)がオープンしました。